

■石井亮一 日本最初の精神薄弱児収容施設の創始者、精神薄弱児教育の開拓者。精薄児問題に生涯を捧げた。

いしりょういち

大政奉還・・・1867＝ 肥前国佐賀水ヶ谷で、佐賀藩士石井雄左衛門忠泰の三男に生まれる。母は馨子。

明治維新・・・1868＝ 1歳：

明治6年政変 1873＝ 6歳：

佐賀の乱・・・1874＝ 7歳：佐賀勸興小学校に入学。

初の民間工場1875＝ 8歳：旧佐賀藩医大須賀家の養子となる。

三つの反乱・1876＝ 9歳：

沖縄県編入・1879＝12歳：退学し、佐賀県立佐賀中学校に入学。

明治14年政変1881＝14歳：

旧佐賀藩主鍋島家の奨学生となったため、

岩倉具視没・1883＝16歳：中退して東京大学工科を受験するも身体検査で不合格となり、奨学生を辞退。

秩父事件・・・1884＝17歳：アメリカのコロンビア大学への留学を目指し、築地立教学校に入学、創業者ウィリアムズ主教に出会う。

内閣発足・・・1885＝18歳：

この間、ウィリアムズから受洗。

帝国憲法発布1889＝22歳：

帝国議会始・・・1890＝23歳：卒業し、

足尾鉾毒始・・・1891＝24歳：***立教女学校教頭となる。濃尾大震災の新聞記事を読むや、現地に急行。孤児となった少女20余名を自宅に**

引き取り、聖三一孤女学院を開設。

大本教・・・1892＝25歳：**顯隣女学校校長にも就任就任するが、孤女のなかに知的障害児がいたことが動機となって、女学院を東京府北豊島郡滝野川村に移転し、知的障害児教育に専念すべく、両職を辞任。**

日清戦争始・・・1894＝27歳：

日清戦争終・・・1895＝28歳：**自らの知的障害もった娘を女学院に預けていて静修女学校長務める未亡人(小鹿)筆子から講師に招聘され、以後、支援を受けるようになり、**

白馬会・・・1896＝29歳：**渡米し、各地で知的障害教育の施設を見学、学理など実地研究を行って帰国すると、**

八幡製鉄始・・・1897＝30歳：**孤女学院を知的障害児教育専門の{滝乃川学園}と改称し、**

Bushidou・・・1899＝31歳：**再び渡米し、普通教育と慈善事業を視察。帰国すると養家から離籍して、石井家に復籍し、**

日比谷公園・1903＝36歳：**筆子と結婚。**

日露戦争始・・・1904＝37歳：***アメリカでの研究成果を、名著「白痴児-其研究及教育-」にまとめる。**

日露戦争終・・・1905＝38歳：

満鉄発足・・・1906＝39歳：学園を現在の東京都豊島区巣鴨に移転させる。

明治天皇没・1912＝45歳：宮内省より下賜された明治天皇の御大葬で使われた幕舎を利用して、学園財政支える養蚕事業を開始。

21ヶ条要求・1915＝48歳：大正天皇御大礼に際し、社会事業功労者として記念章を授与される。

本格政党内閣1918＝51歳：**藍綬褒章。**

ベルサイユ条約・1919＝52歳：**財団法人化に向けた発起人会が発足し、皇后より下賜金を受けるなか、**

大暴落・・・1920＝53歳：***園児の火遊びから学園が火事となり、園児6名が死去したため、閉鎖を決意するが、皇后から激励されて再建を誓い、財団法人も認可された上、皇室主催の赤坂離宮御苑観菊会に招待される。**

原敬首相暗殺1921＝54歳：皇室主催の新宿御苑観桜会にも招待され、**初代理事長に渋沢栄一を迎え、以後経営安定化を進める。**、

関東大震災・1923＝56歳：震災で壊滅した立教女学院に園舎を提供。

護憲三派圧勝1924＝57歳：宮内省から呼出され、**昭和天皇の{滝乃川学園}事業についての御下問に答える。**

以後も、御苑招待、諸下賜金、皇族の来園など続く。

共産党事件・1928＝61歳：**{滝乃川学園後援会}が発足。東京府下北多摩郡谷保村に移転、8千余坪の敷地に教室・礼拝堂・児童寮・成人寮・職員住宅を新築し充実をはかる。宮中晩餐会に招待される。**

海軍軍縮条約1930＝63歳：

満州事変・・・1931＝64歳：「滝乃川学園その日その日」を刊行。

五一五事件・1932＝65歳：東京府児童鑑別院長に就任。妻が脳溢血で倒れ、半身不随となるが、事業への献身続く。

帝人疑獄事件1934＝67歳：**日本精神薄弱児愛護協会(日本知的障害者福祉協会)が結成され、**

芥川直木賞始1935＝68歳：**初代会長。東京府児童研究所長にも就任。アメリカの精神薄弱児教育研究学会で、本人欠席のまま、唯一の日本人会員に推挙され可決されるなど、**

日中戦争始・・・1937＝70歳：***精薄児問題に生涯を捧げて、病没した。**

著作は6冊、論文48編等があり、「石井亮一全集」全3巻も公刊されている。